

み  
す  
つ  
け  
人  
物



## ～ フェンスのあるまちの写真賞を フェンスを撮って受賞したカメラ・ウーマン～

映画『沖縄 うりずんの雨』には、いま、耳を傾けなければならない証言者が多く登場しています。そのおひとりである石川真生（いしかわ・まお）さんは、相模原市とご縁の方です。相模原市が主催する文化事業<フォトシティさがみはら>の2011年度正賞受賞者なのです。受賞対象作品は『FENCES, OKINAWA』。見渡してみれば、わたしたちのまちも<フェンスのあるまち>です。「行幸道路」という呼び名を残す軍都の歴史を持つだけでなく、今年 8 月 24 日に起きた相模補給廠の爆発事故では、日米地位協定の前に駆けつけた消防車は手が出せず、事故の詳細を知ることでもできずにいます。

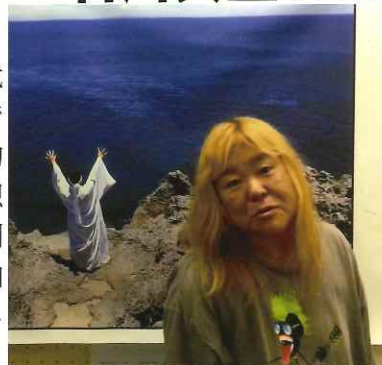
あえて<フェンス>を見据え、独特の手法で沖縄の歴史を伝えようとしている真生さんをご紹介します。

## 沖縄の歴史を撮りつづけるこのまちとご縁の写真家石川真生さん

真生さんは、1953 年沖縄県大宜味村生まれ。「この燃える島、沖縄を写真に撮ろう。私は写真家になるんだ!」と決意した女性カメラマンとは、2011 年 10 月<フォトシティさがみはら>受賞式で相模原市にお迎えして面識をいただきました。<さがみはら写真賞>受賞者として初の女性（2013 年に志賀理江子さんが二人目の女性受賞者）であるというだけでなく、沖縄を深く自覚する彼女の、時代とまっすぐ向き合いつつ、女性ならではの視線が生きた写真にドキドキしました。

たとえば、写真集『日の丸を視る目』のラストページ、自分の人工肛門をさらしたセルフ・ヌード写真。決意に満ちた強い視線が、真生さんの「ただ者でなさ」を感じさせています。強靱なその視線は、『大琉球写真絵巻』の連作シリーズにつながります。『大琉球写真絵巻』は、

1600 年代の琉球王国として独立していた時代から現在までの沖縄で実際に起こった歴史的事実を、真生さんが想像たくましく作った創作写真です。友人、知人が役者として出演して場面を作り、観てほしい沖縄を撮りあげた



2015 年 7 月東京都中野ゼロホールギャラリーにおける「大琉球写真絵巻」写真展会場、作品前の石川真生さん

ものです。そこには怒りだけでなく、真生さんの包容力の厚さのなかで、茶目っ気いっぱいユーモアや女性の持つ細やかさものぞけます。『絵巻』における真生さんの仕掛けを存分に楽しんでみてはいかがでしょうか。

## #フォトシティさがみはらって、なに？



相模原市は、2001 年に総合写真祭「フォトシティさがみはら」を創設し、今年で 15 周年を迎えています。

写真を「優れた記憶の装置として、また現代美術における表現方法として広く親しまれ私たちの生活に欠かせない存在」として位置づけ、「時代と社会を考え、語り合うことで新世紀における精神文化の育成に貢献」することを基本理念とするものです。

毎年、写真制作、発表活動に優れた成果を挙げたプロの中堅写真家を顕彰する<さがみはら写真賞>と<さがみはら写真新人奨励賞>、アジアに目を向けた<さがみはら写真アジア賞>。全国公募方式で選抜する<さがみはらアマチュア写真グランプリ>。プロとアマをもとに顕彰する写真賞であることは特筆されるもので、写真賞自体が<日本写真協会賞 文化振興賞><日本写真家協会賞>を受賞しています。毎年、受賞者は夏に発表され、10 月には相模原ギャラリー（JR相模原駅ビル）にて受賞作写真展が開催されています。

プロ受賞写真家は、初回の広河隆一さんから 2015 年度の鈴木理策さんまで、現在の写真界をけん引する錚々たる顔ぶれとなっています。もちろん、石川真生さんもそのひとり。身近には、毎年順繰りで市立小学校にて「子ども写真教室」を行ったり、「私のこの 1 枚写真展」開催など写真普及イベント、市民参加イベントにも取り組んでいます。自治体主催のわたしたちの税金を使って取り組まれる文化事業として、写真愛好家だけでなく、市民ひとりひとりがもっと誇ってほしい、もっと関心を持ちたいところです。



▲写真展では  
複製画がいつでも  
鑑賞するガイドも行っています。



■沖縄写真家シリーズ「琉球烈像」第 5 巻  
石川真生写真集『FENCES, OKINAWA』（未来社・刊）  
■『日の丸を視る目』（未来社・刊）

真生さんに『沖縄 うりずんの雨』の感想をお訊ねしてみました。この作品のなかでもひととき衝撃的なレイプ犯人の告白シーンには、「外国人の監督だから残せた映像だと思ふよね。よかったと思ふよ。記録する意味があるよね」。フェンスに抗議のデコレーションをする人たちと、それを取り去りつづける人たちの終わらない繰り返しのについては、「どっちがどうってことないよね。実際にどっちもいることで、いいじゃん」。懐ろの広い真生節でした。——いつか、このまちで石川真生さんの写真展ができないかなあ。同じ気持ちの人！ この指とまれっ！



フェンスで囲んでいるのはわたしたちかも知れない。

写真・米軍ハウスを囲む南區御園から相模原市にかけてのフェンス（2015 年 11 月 23 日撮影）



沖繩の伝説の獣シーサーは、悪霊を追い払う力があると...  
ココの気持ち CAFE

ここdeシネマ 第2回 は、2015年6月公開の『沖繩 うりずんの雨』(監督・ジャン・ユンカーマン、シグロ30周年記念 長編ドキュメンタリー映画)です。  
わたしたちのまちも軍都の歴史を引き継いだ在日米軍とともにくらすまちです。沖繩に次ぐ在日米軍基地を引き受ける神奈川県は、基地つながりで沖繩出身の方も多くおいでです。  
そこで、毎日のくらしに取り紛れて気づかない、沖繩とのつながりについて振り返る紙上カフェ特集といたしました。ここdeシネマ 第1回 の来場者アンケートのまとめとあわせて、沖繩について考えてみませんか? 沖繩の困難は沖繩の人たちだけのものではなく、問われているのは、わたしたちだから――

# わたしたちのまちとつながる沖繩



▲南区相模大野でみつけたシーサー



## 知る人ぞ知る 相模原の主婦ブロガー ブーゲンビアさんこと小牧みどりさん

(中央区星ヶ丘在住)

### 総アクセス700万回、毎日の訪問者300人

2006年3月17日、小牧さんがブログを始めたとき、パソコン初心者で文字を打つのも覚束なかったとか。ブログの表題がステキですね、と投げかけると、直前に訪ねた沖繩の花から名前をもらい、沖繩の基地と相模原の基地をつなげて「きちきち日記」として教えてくださいました。  
もし、相模原育ちでなかったらこんな沖繩を好きにならなかっただろうという小牧さん。1952年生まれの小牧さんは、子どものころから、小学校にすらないプールのある米軍ハウスとの生活格差が疑問でした。2005年に在日米軍の再編が行われることを知って、とにかく伝えたい、情報が欲しい、その一心でブログを始めます。相模原育ちだからブログも始めた、と。どうやったら目に触れるか、タイトルをどうすれば読んでもらえるか、写真はどうアップするか――

工夫を重ね、ブログを毎日更新することを課して、日付けの変わる間際の更新もあったとか。今日までお休みしたのは数えるほど。失礼にも笑ってしまったのは、「炎上」の話。ブログを始めたものの読んでくれるのはまわりの友だち、10人ぐらいだけだったそうです。それが3か月後の2006年6月、視聴者参加型のNHKの番組に出演したところ、その日、一夜にして10万アクセスを数えたのです。小牧さんの発信を10万回見てもらえた、ということです。「そのことを「炎上」っていうのよ」とにこやかに語る小牧さん、いえ、ブーゲンビアさん。  
当時は、コメントを自由に書き込める設定だったこともあって、いわゆる「ネトウヨ」の書き込みも多く、「命の保証はない」みたいなことも書かれたとか。「とにかく面白くて」と笑うブーゲン

さん。もちろん傷つくし落ち込む、でも、近場の温泉に行つて3日もすれば元に戻る、「怒り」がエネルギーになると言います。そんなつもりもないのに、ネトウヨに人生相談されたりすることもあって面白いのよ、って。  
いまやネットをするかしないかで情報量に雲泥の違いが出る時代。ブーゲンビアさんの発信する情報は、マスコミでは到底得ることはできません。ブーゲンさんは、「ただの主婦」でありながら、「市民発信局」ともいえる存在です。そうです。そもそも、ブーゲンビアさんを知るキッカケは、都内某所で「相模原から来ました」と自己紹介したら、「相模原!ブーゲンビアさんのいる相模原ですね!」と、初対面の方から話しかけられたからでした。いったいそれは誰?と探し当ててみれば、「ただならぬ主婦」だったのです。

## バスストップから基地ストップの会

座間市の米軍キャンプ座間正門前のバス停で、毎週水曜日の午後1時半から3時半ごろまで、基地反対の座り込みを続けている「バスストップから基地ストップの会」をたずねました。この活動は、2005年11月から続けられており、キャンプ座間への米陸軍第一軍団司令部移転に伴い、米軍基地の反対を訴え続けています。



主要メンバーの田口敦子、池田敦子、須藤瑛子の3氏は(写真左から)一緒に行動することが多く、現在では、毎月5日間から1週間ほど沖繩辺野古のキャンプシュワブのゲート前の座り込みにも参加しています。

そのときは、座間からコメから調味料まで食料持参で、地元でシェアリングしている一軒家を拠点にしているそうで、つい先日までは、カレー隊の弁当作りまでしていたそうです。  
そのほかにも、国会前のデモやドキュメント映画の上映など、常に社会問題と向き合っています。かつては、自然食の弁当屋を営むなど経済的に自立しながら社会とかかわってきました。その芽はさかのぼれば、小学校のPTAの民主化や主婦の問題、食の問題等くらしと政治に目を向けてきことによるものかもしれません。  
お話をうかがっていると、「子孫に美田を残さず」の精神で、好きなことをできるまで続けていきたいと3氏は言います。いつも3人一緒なので姉妹と間違われるそうですが、座間の元氣いっぱい3人娘の活躍に、当分、目を離せそうにありません。



▼クリスマス飾りにまぎれそうな可愛いシーサーでした

## 沖繩に足しげく通う座間の3人娘は元氣いっぱい!



▲南区緑道近くのお家でみつけ



▲16号線沿いのマンションでも玄関先で悪霊払い



▲友人宅では玄関の外側ではなく内側で魔除けしてました

なんかシーサーっていろいろここにフツーにいて、でもみんな、顔が違うんだね!

<ここdeシネマ 第1回>アンケート このまちの声から

**イメージ**  
・あつい、海がきれい。米軍基地がたくさんある。ゴーヤがおいしい。治安が悪い。戦争・さとうきび畑のうた・修学旅行・パイナップル・こま犬・フラガール・ヤンバルクイナ・ハブ酒・ジンベエザメ・イリモテヤマネコ・豚足・海ぶどう (中央区20代)

・基地の街、戦地になった場所、リゾート地。複雑な気持ち。行ったことないです。(中央区40代)

・日本有数のリゾート地で自然の宝庫でありながら、かこくな歴史を持った場所と思います。(中央区40代)

・素晴らしい文化と人柄をもった人々と王国がもとにあって、日本のために唯一民間人もまざった戦争にまきこまれてしまって申し訳ないくらいです。(南区50代)

**行きたい**  
・行ってみたいです。学校の社会でやりました。(緑区10代)

・今、応援すべき大切な場所の一つだと思います。(中央区30代)

・基地問題が気になります。きれいな海を見てみたいです。(緑区40代)

**基地・歴史**  
・基地賛成論者の意見も知りたい。(中央区50代)

・自国のため基地をつくり、必要かと思う。でも、自分の住んでいるところに作られるのはいやですね。その方々の気持ちになつたらどうしたらいいのか実際は答えが出ない。(南区60代)

・年代によって感じるものが違ってきます。きれいな海、けしきと旅行でしかなかったことからやはり、戦争問題に関心を持ち始めました。(南区60代)

・3年前、沖繩に旅行しました。沖繩は、観光が盛んですが、基地もありとてもいびつに見えました。(南区20代)

・沖繩の歴史、日本の歴史、ちゃんとは分かってないけど、日本から基地をなくしたいと思っています。(中央区30代)

**知りたい**  
・国の中心に近いところの情報と、沖繩とのギャップが大きいことが気になります。情報を共有、標準化していくにはどうしたらいいか、何かできることはないかいつも思います。(市外40代)

・きつと、ほとんど知らないと思います。(市外50代)

・知っているようで知らない。考えなくてはならないのに考えてない。けれども、大切なことがある。(中央区50代)

インターネットを使う発信には、ホームページ、ブログ、twitter, facebook などがあります。小牧さんは、ブログのほか twitter = ツイートと称される140文字以内の短文の投稿もしていて2800人のフォロワー = 読者がいます。  
そして、いま、注目したいのは「ツイキャス」。モイ株式会社が運営する、iPhone や Android 端末、パソコンから手軽にライブ配信を行えるサービスです。まさに、ひとりひとりが放送局になり、見る人は現場にいらなくても目撃者となることのできる「どこでもドア」なのです。  
小牧さん、沖繩・辺野古の様子を毎朝目撃して泣いている、と言われていたのが印象的でした。

**TwitCasting LIVE**

## ブーゲンビアのきちきち日記

神奈川の米軍基地のある街から毎日更新。猫と花と沖繩が好き。基地と原発はいらない。

この写真は、小牧さんのブログのタイトル画像です。沖繩の海が広がるすっきりしたレイアウトは、さすが読みやすくわかりやすいです。アドレスは、[http://blog.goo.ne.jp/naha\\_2006](http://blog.goo.ne.jp/naha_2006)

# わたしたちのまちの空を オスプレイが飛んでった...

写真：2014年8月18日撮影（相模補給廠監視団・提供）



## こま まち 情報

▼ 停泊する空母  
ロナルド・レーガンを  
バックに金子ときおさん

——基地問題にこだわるのは？  
私は相模原市東林間の住まいに引越してきたのが55年前の10歳の時。当時も厚木基地の米軍戦闘機が自宅の上を爆音をとどろかせて、飛んでいました。小学校時代、低く飛ぶ飛行機のパイロットの顔が見えた記憶があります。大変な爆音と恐怖でした。

大学を卒業すると厚木基地爆音防止期成同盟に入り、厚木基地の騒音問題に本格的にかかわるようになりました。25年前、市議会議員に立候補する時、相模原市域全体の基地問題にも目を向けるようになり、相模補給廠監視団に入りました。以来、相模原の基地問題を議会活動のメインテーマに据え、毎議会取り上げています。地域活動と議会活動の連携を進めています。10年前から、キャンプ座間の問題にも本格的に取り組み、「第一軍団の移駐を歓迎しない会」を立ち上げ、キャンプ座間のゴルフボール飛出し事故やヘリコプターの離発着訓練問題なども取り組んでいます。

——このまちの人と一緒に騒音問題にも取り組んでいますよね？

厚木基地の騒音問題は厚木基地爆音防止期成同盟の情宣部長等をやりながら、国を相手の裁判に第二次訴訟から原告として加わり、第三次訴訟では原告団事務局次長、現在は四次訴訟団の団長代行を務め、7月30日の東京高裁判決での勝利判決を受け、被告・国が控訴したため、最高裁での裁判闘争を進めながら、全国の騒音被害訴訟や基地返還の活動を進めています。

——いま、沖縄にどのような思いをお持ちでしょうか？

沖縄との連帯は神奈川、相模原の基地問題をしっかり闘うこと。沖縄でも、神奈川でも「基地はいらない、米軍は本国に帰れ、騒音を持ち帰れ」という視点で活動を進めています。佐世保や岩国、横田、沖縄の嘉手納、普天間などの運動との連携を進め、更に辺野古の運動の支援も続けています。

※金子さんは1996年12月より「追跡在日米軍」というホームページを開設しています。アップデートを情報が得られますよ。http://www.rimpeace.or.jp/

## クリップ・ボード

相模総合補給廠の火災・爆発事故と日米地位協定

講師：沢田政司さん（相模補給廠監視団）

— 第一軍団の移駐を歓迎しない会 第12回総会と記念講演会 —

【とき】12月5日（土）19:00～

【ところ】ユニコムプラザさがみはら

【問合せ】☎042-741-0232（金子事務所）

※18:00～ 総会が行なわれます。

※会員以外の方も、総会から参加いただけます。

※記念講演は総会後となりますので開始時刻は若干前後する場合があります。

NPO法人ここずっととは  
市民相談窓口を開いています。相談は☎042-745-0676へ。

## こま みせ

東林間

なんでもありのお店だから

## チャンプール

夢観る八百屋

店名から沖縄に関連のお店と思い込んでいたのですが、有機野菜や無添加の加工品、体にやさしい素材で作られた雑貨、花苗まで、何でもある「チャンプール」さん。「チャンプール」は、沖縄の方言で「混ぜこぜにする」という意味だと改めて知りました。そして店頭に掲げられた看板には「夢観る八百屋」とあります。わけの分からないお店と地元商店街から怪訝に思われてつづけて気づけば32年目を迎えていたと、二代目店主の高岡馨（たかおか・けい）さん、33歳。

月曜配達、受付中！

高齢化の進む東林間地区の配達に当てている月曜日、しばしば配達先で話し込んでしまっ、近所なのになかなか帰ってこない、かたわらで父親の初代店長・章夫さんが苦笑い。なお、まだ余裕があるので、お値段関係なく月曜日は配達をうけたまわります、とのこと。



放射能測定中！

「チャンプール」の商品棚の隣に見える赤い筒のようなものは、放射能測定器。データが出てくるパソコン前のプレートには「測定依頼受け付けます」の文

字。この測定器はキリスト教団からの寄贈だそうですが、お店のバックヤードには、購入価格150万円ぐらいだったというベラルーシ製の合算1.3ベクレルまで測れる放射能測定器もあって、今まさに測定中でありました。配送は二代目に任せ、初代はもっぱら「東林間測定室」と名乗って測定作業に取り組んでいます。もともと「いのちにかかわるもの」を売る仕事をしているのだから、自分で調べなきゃならないと思っている、と章夫さん。「もちろん古い情報も大事だけど、最新の情報も大事。そうしなきゃ、フクシマで頑張っているひとたちにフェアじゃない」と言い、何よりも情報をみんなと共有していきたい、と。原発事故を経て、問題に気づき、ひととの出会いも広がってきたと語ってくれました。

顔が見えるから応援中！

二代目に「今いちばんのオススメは？」とお訊ねすると、すぐさま「座間市栗原の大木さんの野菜」と返事。「ヤマキファーム」大木さんのホーレン草、ルッコラ、小松菜など。完璧主義の生産者で「いいものを売りたい」と自身で放射能測定までしているこだわりようだそうです。「やはり、顔の見える人を応援したいから」と二代目の言葉でした。

〒252-0311 相模原市南区東林間5-12-7  
TEL 042-747-2858  
TEL 042-746-9745 FAX 兼用

定休日 毎週日曜日（他にお盆休み正月休みあり）  
営業時間 11:00～19:00

## Information

### ここdeシネマ

第3回は『アラヤシキの住人たち』を上映します

「ここdeシネマ」は「まちづくり」を応援します。

●市民活・イベントの告知、情報フライヤーをお持ちください。お客様が自由にお取りいただけるようにします。●事業主の皆さん、お店情報コーナーを用意します。チラシ置きます。●映画好きの方のオフ会企画もどうぞ。

第3回 2016年 2月13日(土)  
PM7:00上映開始

会場：相模女子大学グリーンホール・多目的ホール



観たい作品、劇場画、ドキュメンタリーを問わずリクエストください。バリアフリー上映が原則です。字幕・音声ガイドがない作品については、制作することも視野に入れています。そんな、こんなで関心をお持ちください。あるいは、運営スタッフにご参加ください。リクエスト、スタッフ申込み、字幕・音声ガイド制作希望の方、下記にご連絡ください。

※なお、今年度第3回までのここdeシネマについては、さがみはら市民協働ファンド・ゆめの芽の助成を受けています。

『フリー情報紙 こそずたうん』No.11

【発行日】2015年11月28日

【発行者】NPO法人ここずっと

〒252-0303 相模大野9-6-18  
こそずたうん編集室



ご意見、投稿、記者志望者は  
こそずたうん編集室へ

【TEL】042-745-0676 【FAX】042-742-0447

【E-mail】info@cocozutto.jp